

道風

道風記念館だより 第68号

発行日
令和五年九月一日

編集・発行

春日井市道風記念館

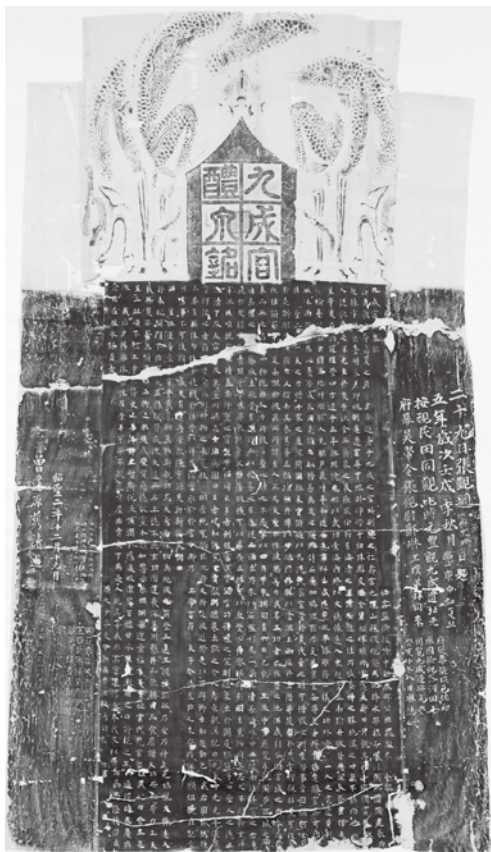
春日井市松河戸町五-九-三

電話(〇五六八)八二-六一〇〇

収蔵品紹介 九成宮醴泉銘拓本

一幅 唐時代(六三三年)

六三一年、唐の太宗(五九八〜六四九)は隋の仁寿宮を修復して、名称を九成宮と改めました。翌年の夏、避暑のため九成宮を訪れると、宮殿の



2485×1440 mm



部分拡大

近くに甘みのある水が湧き出しました。そこで、魏徵(五八〇〜六四三)に撰文を、歐陽詢(五五七〜六四一)に揮毫を命じてこの碑を建てさせました。歐陽詢七十六歳のときです。

歐陽詢は、虞世南・褚遂良とともに初唐の三大家と称される書家です。特に楷書に秀で、この他に「化度寺碑」など数多くの名品を残しています。

厳格な楷書体で書かれた九成宮醴泉銘は、緻密な造形性と格調の高さを備え、中国書道史上屈指の名碑として著名です。これ以上の楷書はあり得ないという意味で古くから「楷法の極則」と称され、現在でも多くの人に手本にされ続けています。この碑は陝西省麟遊県天台山に現存しています。

この拓本は碑面がかなり摩耗してからのものなので、古い拓とは言えませんが、篆額の周囲の装飾まで採られているところが貴重です。

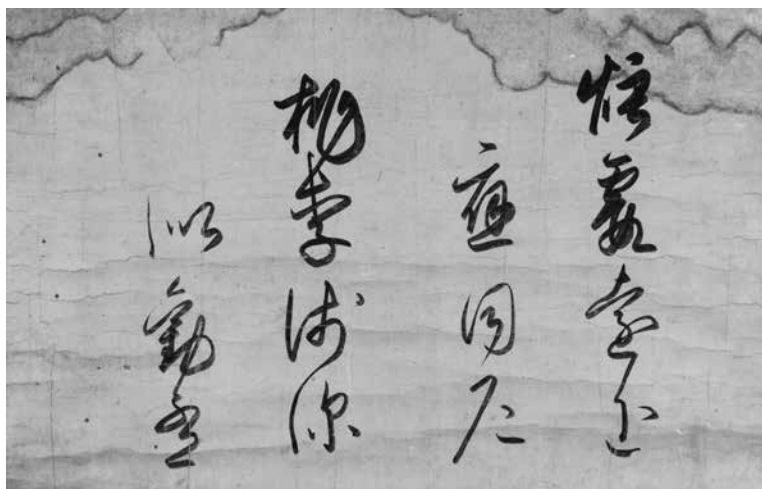
愛知学院大学教授だった高木大宇氏(一九三〇〜二〇一三)が教材として収集された周代から唐代までの拓本などの資料を退官後一括して当館にご寄贈いただきました。この拓本はその一点です。ご寄贈の資料は「高木大宇コレクション」として大切に保管しています。

春日井市制80周年記念 道風記念館特別展

人と書く日本の書の息吹

会期…令和5年9月23日(土)～10月29日(日)
【前期】9月23日(土)～10月9日(月) 【後期】10月11日(水)～10月29日(日)

書は人の心を映す。昔から今に書き継がれてきた書を見わたすと、日本の歴史、文化、人が見えてくる。

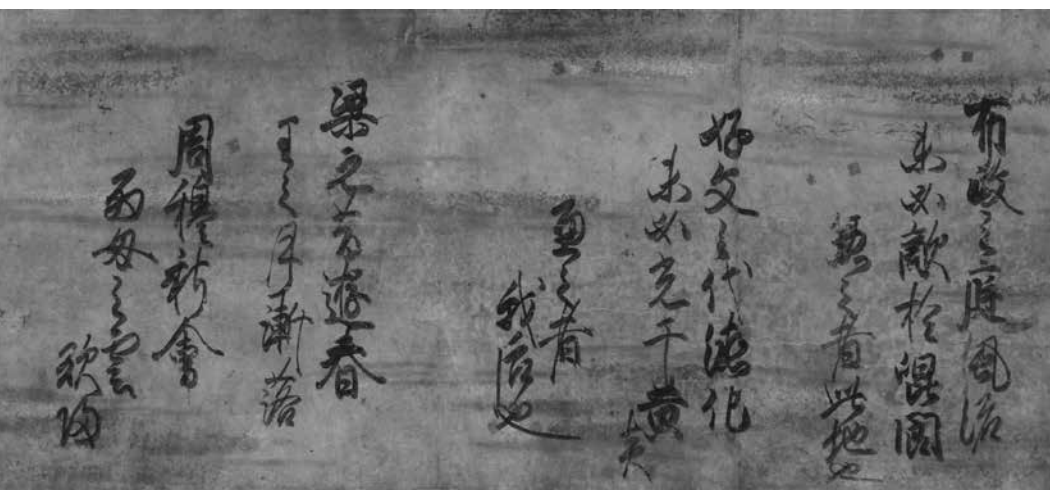


伏見天皇筆和漢朗詠集抄

王朝文化の粹、和歌をしたためた流麗な仮名古筆。藤原定家が宮中儀式の次第を記した個性豊かな墨痕。迷いのない筆で書き上げた伊達政宗の手紙。茶人、小堀遠州が新たに開拓した定家流の一行書。僧、良寛による穏やかな筆に遊んだ草仮名の和歌。学者・歌人であった會津八一の孤高の書画等々。

今回の特別展では、平安時代から現代という、長い年月のなかで書かれ、残された日本の書を紹介します。古筆、記録史料、懐紙・短冊、手紙、手本、一行書、書画作品など、種々の書跡を広い視点から見わたせば、見えてくるのは日本の歴史文化、そしてその時代を生き、書を書きつづけた人々の息づかいです。

今回の展覧会は、書の研究者で、当館顧問の古谷稔氏が長年にわたって収集された研究資料をご紹介します。氏のコレクションは、書芸術として優れた資料であるだけでなく、平安時代から現代までの幅広い時代、さまざまな様式の書を見わたすことができます。この千載一遇の好機に、ぜひ日本の書の息吹を感受してください。



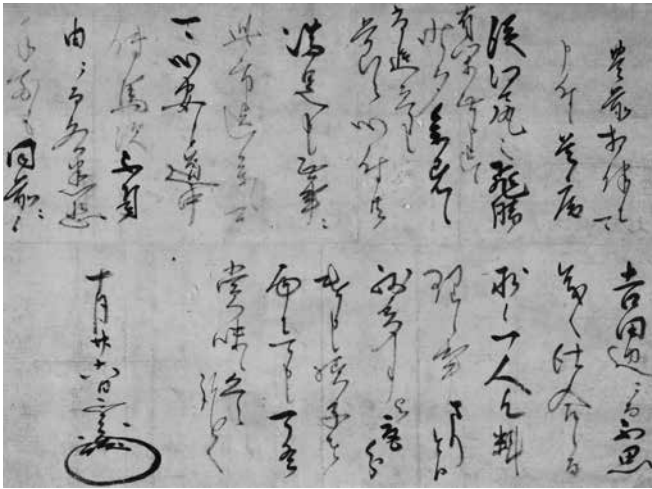
伝藤原忠通筆和漢朗詠集抄(部分)

◆ 展覧会のみどころ

1、著名人の書

歌人、藤原定家の日記や宮中儀式の次第を記した記録。武將、伊達政宗が息子に宛てた手紙。茶人、小堀遠州の一行書。僧、良寛が草仮名で記した和歌。数々の著名人の真筆をこの展覧会で観ることができます。

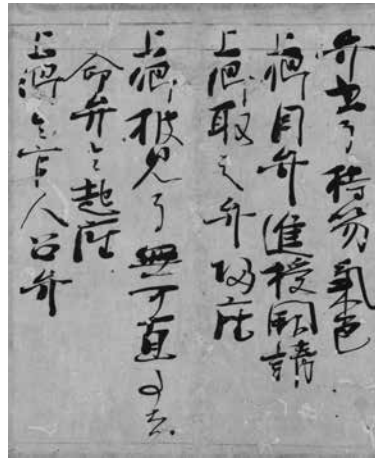
古い時代に書かれた書跡は筆者が明確でないものが多いのですが、このたびの特別展では、ほとんどが書いた人がわかる資料であることが特徴です。筆者不明も含め、様々な日本の書を鑑賞し、書いた人に想いを馳せてください。



伊達政宗筆書状

2、悠久の時のなかで書き継がれてきた書

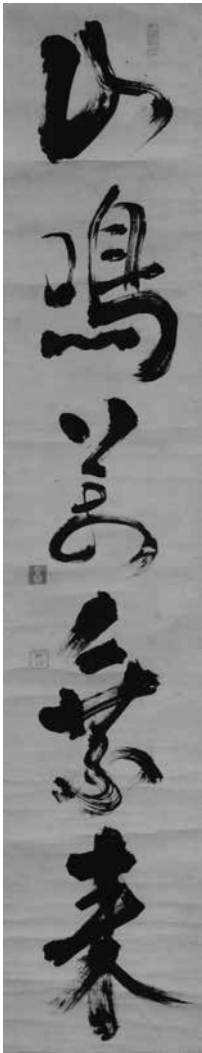
この展覧会では、古くは平安時代、新しくは昭和時代に書かれた日本の書を展示します。幅広い時代の書を時を追ってみることで、その時代時代の雰囲気を感じ、豊かな日本の書芸術の文化を知ることができます。日本の書の流れを法性寺流、定家流、光悦流といった書流として眺めることも可能です。



藤原定家筆記録切

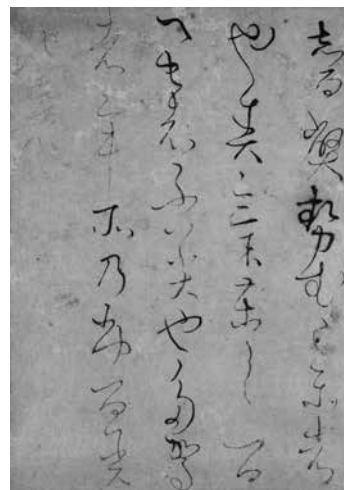
3、さまざまな様式の書

長い歴史のなかで書き継がれてきた書跡は、書きつけた記録であったり、筆跡の美しさを競った和歌であったり、大切な人を思っていたためた手紙であったりします。



小堀遠州筆一行書

この展覧会では、時代ごとに区切るだけでなく、その資料の性質によって章を立てています。さまざまな様式で書きつづられた書をご覧いただき、書いた人の息づかいに触れ、手で書き伝えることの素晴らしさを発見していただきたいと思います。



良寛筆和歌一首

【関連事業 講演会】

令和5年9月23日(土)

午後1時30分～3時

演題 「人と書く日本の息吹」

講師 古谷稔氏(東京国立博物館名誉館員・春日井市道風記念館顧問)

【展覧会図録】

『道風記念館特別展「人と書く日本の息吹」』

図録 一冊 八〇〇円

令和5年度 スケジュール（後期）

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
<p>特別展「人と書」 9月23日～10月29日 ・「平安時代から現代までの書の名品を展示。」 ■特別展講演会 9月23日</p>		<p>企画展「中国名碑拓本展」 11月3日～12月10日 ・館蔵品のなかから中国名碑の拓本を展示。</p>		<p>館蔵品展「書に想いをのせる」 12月15日～令和6年4月21日 ・様々な想いの込められた書作品を展示。 ※前期後期で展示品を入れ替えます。 ※会期中に工事による臨時休館があります。</p>				<p>道風記念館講座 3月</p>	
<p>展覧会 ■■■■ 講座 ○○○○○</p>									
<p>常設展示 小野道風をはじめとする平安時代の書について</p>									

※内容・会期等を変更することがあります。

展覧会案内

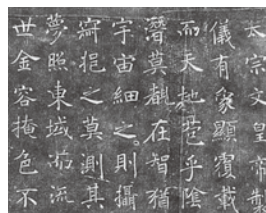
企画展「中国名碑拓本展」

書を学ぼうえで欠かせないのが臨書（古典を手本として習うこと）です。長い書の歴史のなかで名跡として残ってきた名人の書を学ぶことは、筆の使い方を知ることであり、書の歴史そのものを知ることでもあります。

春日井市道風記念館では、高木大宇コレクション（※1頁参照）を中心として中国の碑拓本を多数所蔵しています。今回の企画展では、館蔵品のなかから特に名碑と名高い碑の拓本を選んでご紹介します。この展覧会で、きっと習ったことのある中国の古典に出会えると思います。

今回展示する拓本のもとになった石碑は、おもに中国の漢代、唐代に立てられたものです。千年以上前に刻された文字は、採拓（拓本にとること）されることで独特の味わいが生まれ、古代中国へのロマンを感じることができます。ぜひ、拓本の魅力にふれてください。

- ◆ 会 期 令和5年11月3日(金)～12月10日(日)
- ◆ 観覧料 一般 100円、高校・大学生 50円、
中学生以下 無料
- ◆ 休館日 月曜日



雁塔聖教序(部分)



牛欄造像記